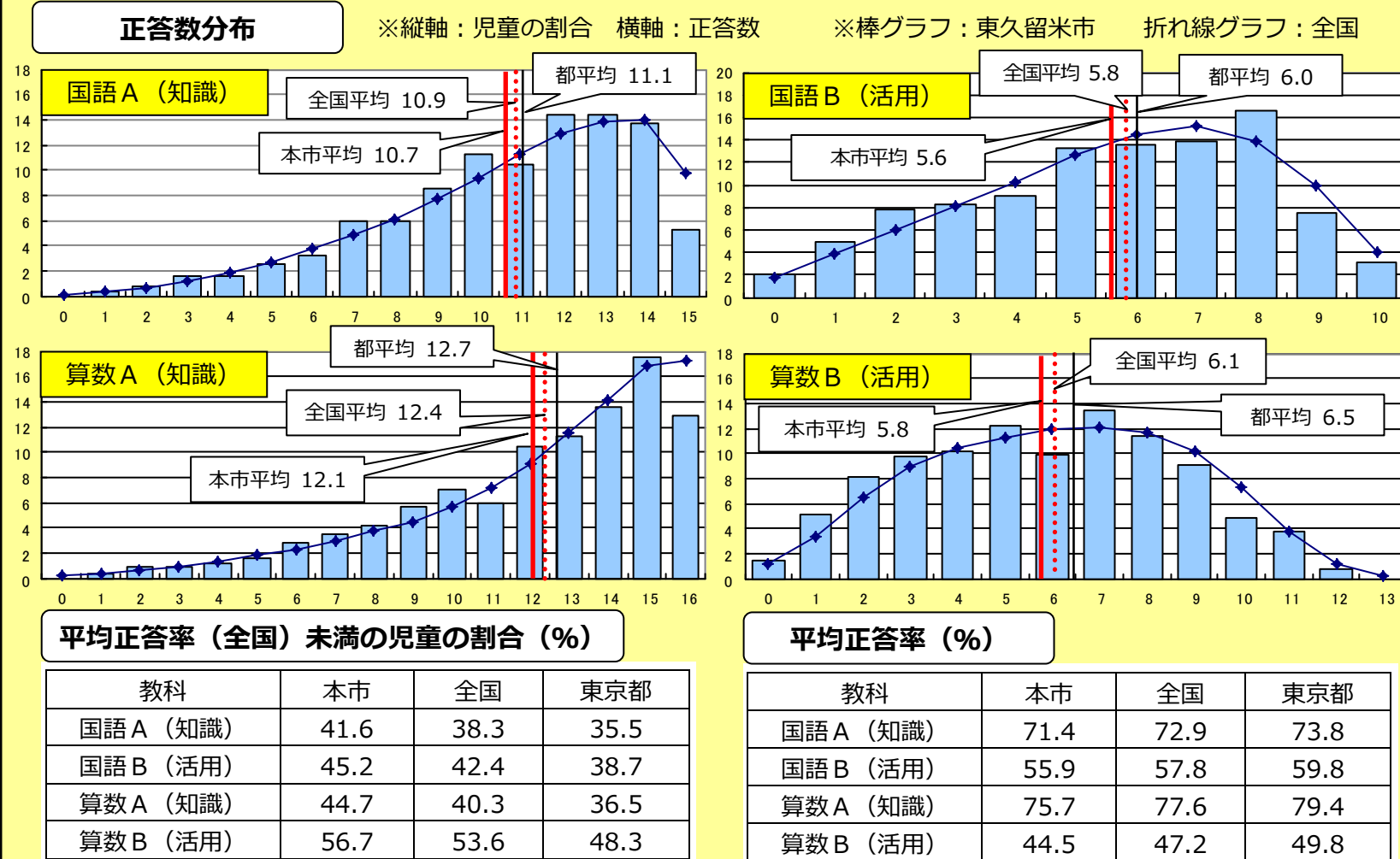


平成 28 年度 全国学力・学習状況調査及び市学力調査の結果について【小学校】

学力調査結果の公表の考え方

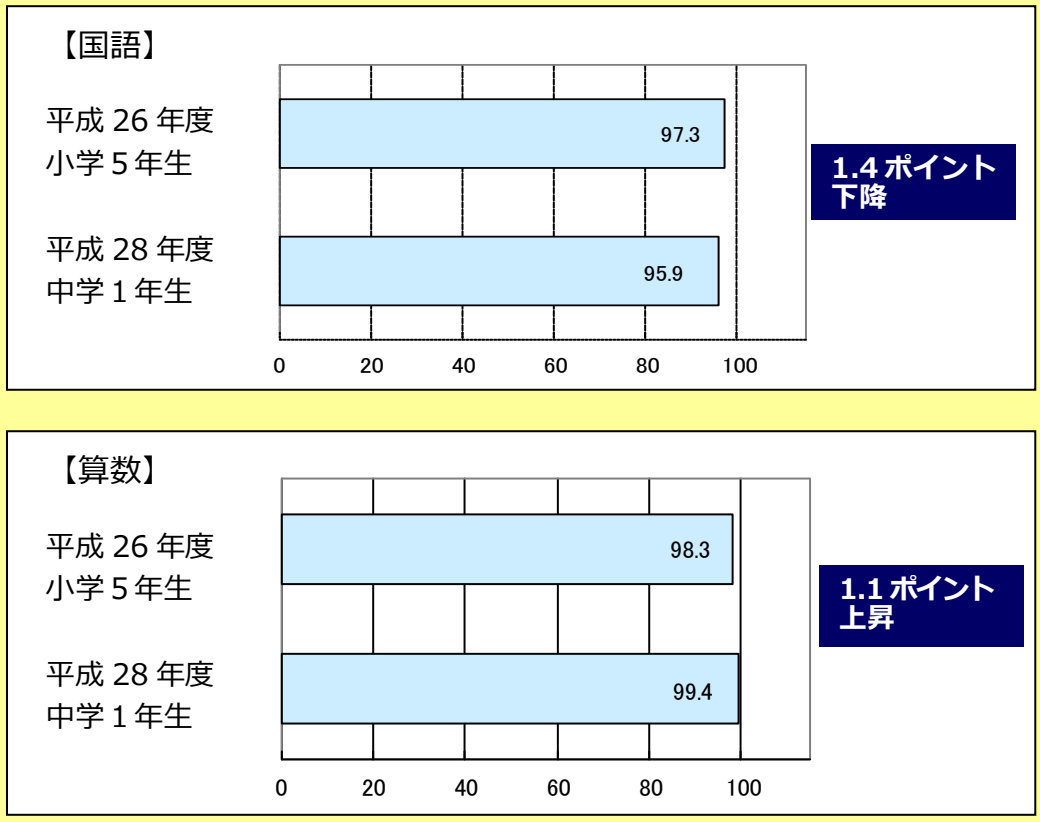
義務教育の目的は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことにある。本市における、この義務教育の目的の学力面での達成状況を明らかにするため、学力調査の結果に基づき、(1)基礎的な学力の定着状況と、(2)児童・生徒の一人一人の学力の伸長の度合いを市全体及び学校ごとにまとめ公表する。また、この調査結果を、今後の教育活動の一層の改善・充実を図っていくための基礎資料とする。

学力の定着状況について 平成28年4月19日実施 調査対象学年：第6学年 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果より



学力の伸びについて 平成28年4月12日実施 平成28年度市学力調査より

平成26年度小学5年生と平成28年度中学1年生（同一児童）の平均点を、それぞれ全国平均を100とした指数に換算し、伸びを比較



調査結果の概要

現状・課題

【概要】

- 国語A・B、算数Aは、正答数の多い層が厚く、算数Bは幅広く分布しており、正答数が少ない層が厚い。また、国語A、算数A・Bの調査において、中間層がやや少ない傾向が見られる。
- 平均正答率は、全ての調査で、全国平均及び都平均を下回っている。
- 平均正答率（全国）未滿の児童の割合は、全ての調査で全国に比べ多くなっている。国語Aは3.3ポイント、国語Bは2.8ポイント、算数Aは4.4ポイント、算数Bは3.1ポイント多くなっている。

【各教科の課題】

※全国平均より下回っている課題のうち顕著なもの

《国語》「ローマ字の読み・書き」「漢字の読み」「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する」「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」に課題が見られる。

《算数》「除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないことを理解する」「単位量当たりの大きさの求め方を理解する」「小数の除法の計算をすることができる」「示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述できる」「示された事柄について、二つの表を基に読み取ることができない事柄を特定することができる」に課題が見られる。

【概要】

- 国語において、平成26年度小学5年生では、全国平均値100を、2.7ポイント下回っていた。平成28年度中学1年生でも、4.1ポイント下回り、2か年で1.4ポイント下降した。
 - 算数において、平成26年度小学5年生では、全国平均値100を、1.7ポイント下回っていた。平成28年度中学1年生でも、0.6ポイント下回ったものの、2か年で1.1ポイント上昇した。
- 【各教科の課題】 ※全国平均より下回っている課題のうち顕著なもの
- 《国語》
- 「指示語の内容理解」「同意語の知識」「必要なことを書く」「内容を整理して書く」「書き方の工夫」等に課題が見られる。
- 《算数》
- 「約数と公約数」「メートル法・体積」「資料の読み取り」等に課題が見られる。